

第1章 2020年度 生乳検査成績

1. 合乳検査成績

(1) 合乳成分検査成績

道内で生産し取引される生乳について成分検査を実施しました。

北海道指定生乳生産者団体加入の101受入箇所（以下「インサイダー」という。）の全合乳と、一部これに属さない農協および生産者8団体（以下「アウトサイダー」という。）に係る合乳について検査を実施しました。

ア. 方 法

(7) 試 料

生乳取引の行われる工場において、検査日に集乳施設（以下「CS」という。）、およびバルククーラー（以下「BC」という。）から搬入される合乳を取引単位（受入箇所）の試料としました。

(4) 検査回数

旬間1回以上

(ウ) 試料採取箇所および方法

CSおよびBCを経由した試料は、タンクローリーから採取しました。

なお、試料の採取および保管に当たっては、当該乳業工場に1名ずつ業務を委託した生乳検査事業協力管理者（160名）の協力を得ました。

(イ) 検査項目および方法

- a. 脂肪率・・・・・・・・・・光学式乳成分測定機により検査しました。
 - b. タンパク質率・・・・・・・・・・
 - c. 乳糖・灰分率・・・・・・・・・・
 - d. 無脂固形分率・・・・・・・・・・
 - e. 全固形分率・・・・・・・・・・
- （乳糖率+1.00として算出）
（タンパク質率+乳糖・灰分率として算出）
（脂肪率+無脂固形分率として算出）

イ. 結 果

(7) 合乳検査乳量

表1に地区別合乳検査乳量を示しました。

総検査試料数および検体数はそれぞれ85,935試料、171,870検体（1試料当たり2検体）で、検査乳量は4,016,903,257.9kg、うちインサイダーの検査乳量は4,007,100,344.9kg、アウトサイダーは9,802,913.0kgでした。

なお、合乳検査乳量は前年度と比較して102.0%でした。地区別では桧山地区の94.8%から網走地区の104.3%の範囲でした。

(イ) 合乳成分検査成績

表 2 に地区別合乳成分検査成績を示しました。

全道の 2020 年度の平均脂肪率は 3.976% であり、前年度 (3.967%) と比べ 0.009 ポイント増加しました。平均無脂固形分率は 8.783% で、前年度 (8.776%) と比べ 0.007 ポイント増加しました。平均タンパク質率は 3.330% で、前年度 (3.313%) より 0.017 ポイント増加しました。平均乳糖・灰分率は 5.453% で、前年度 (5.464%) に対して 0.011 ポイント減少しました。

(ウ) 合乳成分検査成績 (分布)

表 3 に合乳における成分ごとの度数分布を示しました。

脂肪率の最多分布区分は 3.900~3.999% であり、割合は 22.9% と前年度の 25.0% に比べ 2.1 ポイント減少し、4.000~4.199% の範囲に 38.3% と前年度 (38.4%) に比べ 0.1 ポイント減少しました。

無脂固形分率の最多分布区分は前年度と同様に、8.700~8.799% 区分の割合は 34.9% と前年度の 36.3% に比べ 1.4 ポイント減少しました。全体的には 8.700~8.999% の範囲に 76.6% と前年度 (76.1%) に比べ 0.5 ポイント増加しました。

タンパク質率での最多分布区分は 3.300~3.399% 区分の 38.6% と前年度 (37.9%) に比べ 0.7 ポイント増加しました。

乳糖・灰分率の最多分布区分は 5.400~5.499% 区分の 66.3% であり、前年度 (64.6%) に比べ 1.7 ポイント増加し、5.500~5.599% 区分は前年比 5.9 ポイント減少しました。

(イ) 合乳検査乳量および成分率の月別変動

図 1 に合乳検査乳量および成分率の月別変動を示しました。

検査乳量は 5 月にピークを迎え 11 月まで減少し、以降 1 月まで増加傾向を示しました。4 月から前年度を上回る乳量で推移しており、上期の累計乳量は 2019 年度 (令和元年度) 対比 102.5%、下期累計乳量は同 101.5%、通年では同 102.0% でした。

成分率は例年と同じく 8 月に成分率の下限を迎え、12 月まで増加傾向を示しました。